

医師確保計画の進捗について

【目次】

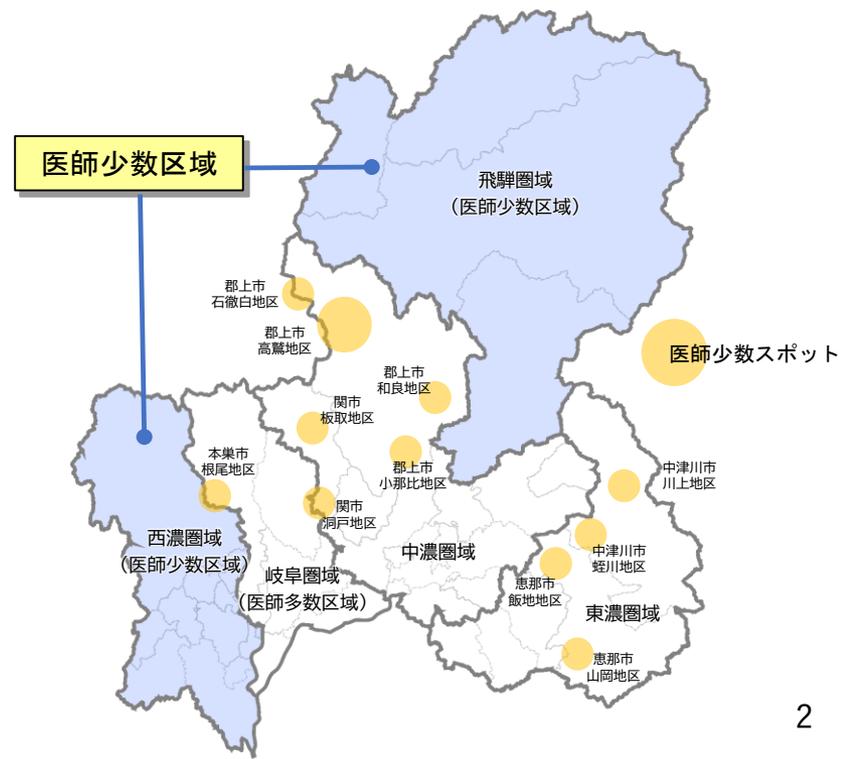
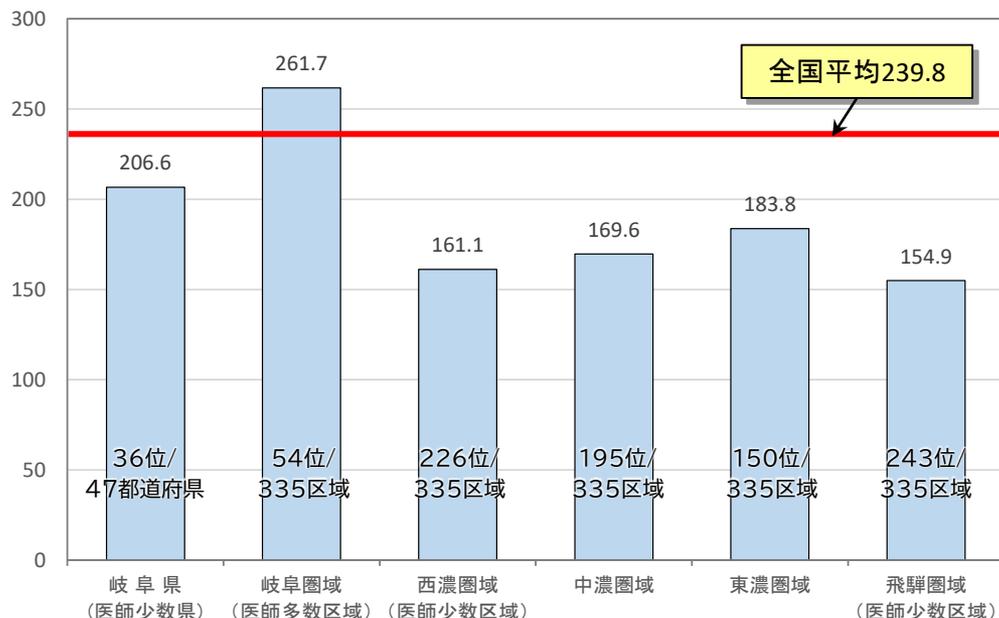
- はじめに（医師確保計画とは）
- 1 医学生修学資金受給医師
- 2 初期臨床研修（研修医）
 - 2-1 初期臨床研修医師数
 - 2-2 地域医療研修先
 - 2-3 初期臨床研修医の研修修了後の勤務先
- 3 専門研修（専攻医）



医師確保計画とは

- 平成30年7月に医療法が改正され、保健医療計画の一部として令和元年度に策定。
(計画期間：令和2年度～令和5年度)
- これまで、地域ごとの医師偏在を測る指標として人口10万人対医師数が用いられてきたが、全国ベースで医師の多寡を統一的・客観的に比較・評価する新たな指標として、医療需要・人口構成、医師の性別・年齢分布等を加味した「**医師偏在指標**」を設定。
- 医師偏在指標の下位3分の1程度を医師少数区域に設定し、医師少数区域を脱するよう医師偏在の是正を図る。
- 計画では、医師偏在指標の大小、将来の需給推計などを踏まえ、医療圏ごとに「医師確保の方針」を定めるとともに、各医療圏で確保すべき「目標医師数」、目標を達成するための「施策」を定める。

医師偏在指標



医師確保計画とは

■ 目標医師数（令和5年）

（単位：人）

区分	医療施設従事医師数 （H30年）※ <small>厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」</small>	保健医療計画の人口10万人対 医師数の目標値（R5年）	目標医師数 （R5年）	増加数
岐阜県	4,295	235.9	4,553	258
西濃圏域	608	—	664以上	56以上
飛騨圏域	263	—	287以上	24以上
岐阜圏域	2188	—	西濃・飛騨圏域と合わせて増加数が258人となるよう取り組む。	
中濃圏域	620	—		
東濃圏域	616	—		

※本来であれば、厚生労働省から2年に1回公表される「医師・歯科医師・薬剤師調査」における令和2年の医師数により医師確保計画の進捗状況を確認すべきであるが、今年度においてはその数値の公表が大幅に遅れているため、平成30年度の数値が最新となる。

■ 目標医師数を達成するための施策

- 1 地域卒卒業医師の確保
- 2 岐阜県医学生修学資金貸付制度による県内で勤務する医師の確保**
- 3 自治医科大学卒業医師の確保
- 4 臨床研修医の確保**
- 5 専攻医の確保**
- 6 岐阜県医師育成・確保コンソーシアムによるキャリア形成支援
- 7 勤務環境を改善するための施策 等

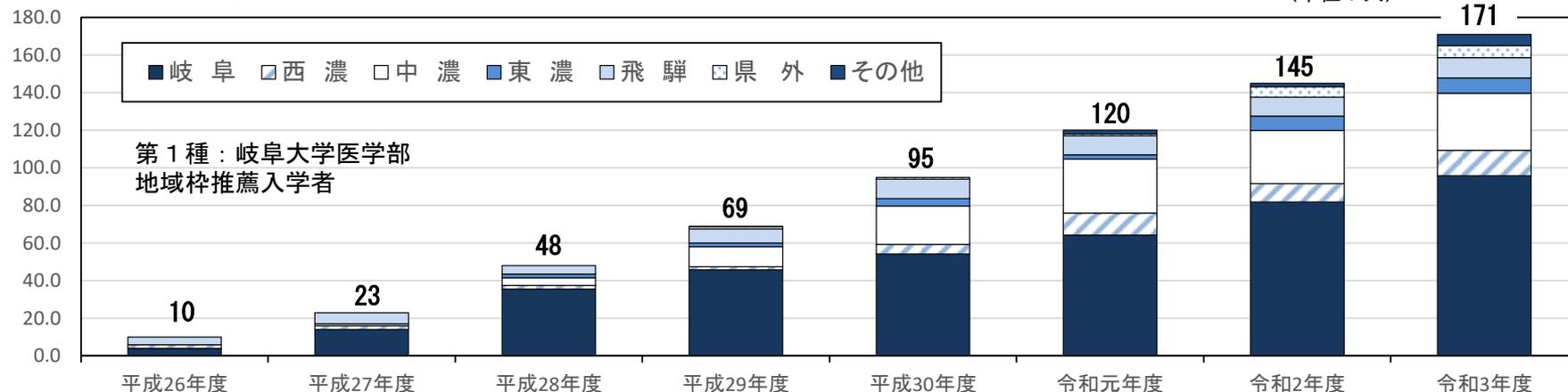
今回は、上記の目標医師数を達成するための施策のうち、「2 岐阜県医学生修学資金貸付制度による県内で勤務する医師」、「4 臨床研修医」、「5 専攻医」という観点から、次ページ以降その進捗について報告する。

医学生修学資金受給医師の圏域別勤務状況（累計）

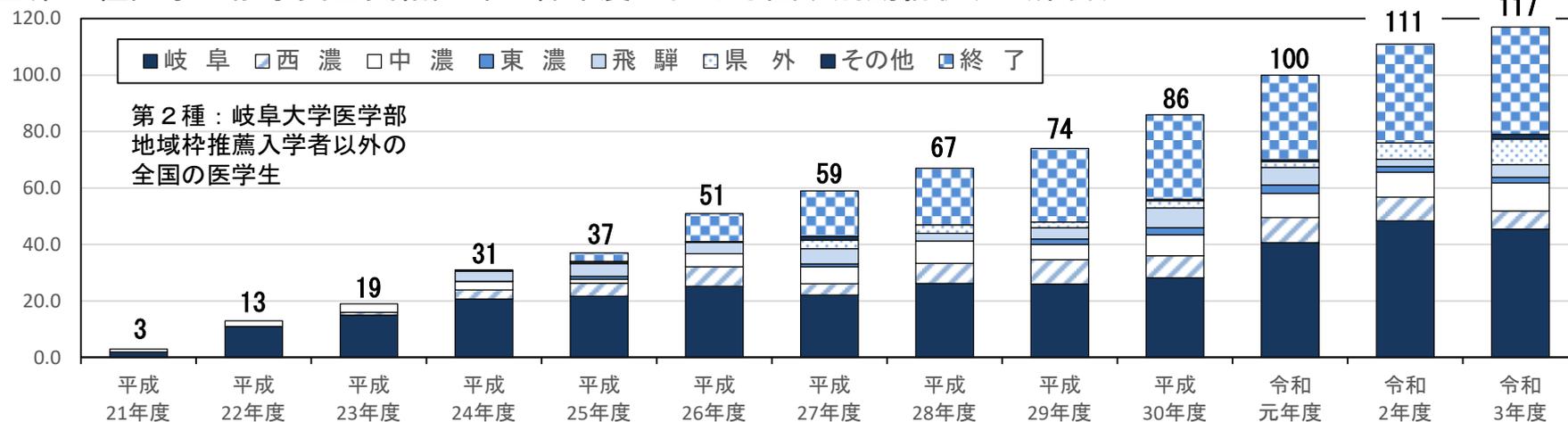
岐阜県医学生修学資金（平成20年度創設）を受給し、平成21年度から令和3年度に勤務を開始した医師の勤務状況を圏域別で集計。

医学生修学資金受給医師は年々増加し、令和3年度には288名が県内外で活躍中。

■ 第1種医学生修学資金受給医師（地域枠）の各年度における圏域別勤務状況（累計）（単位：人）



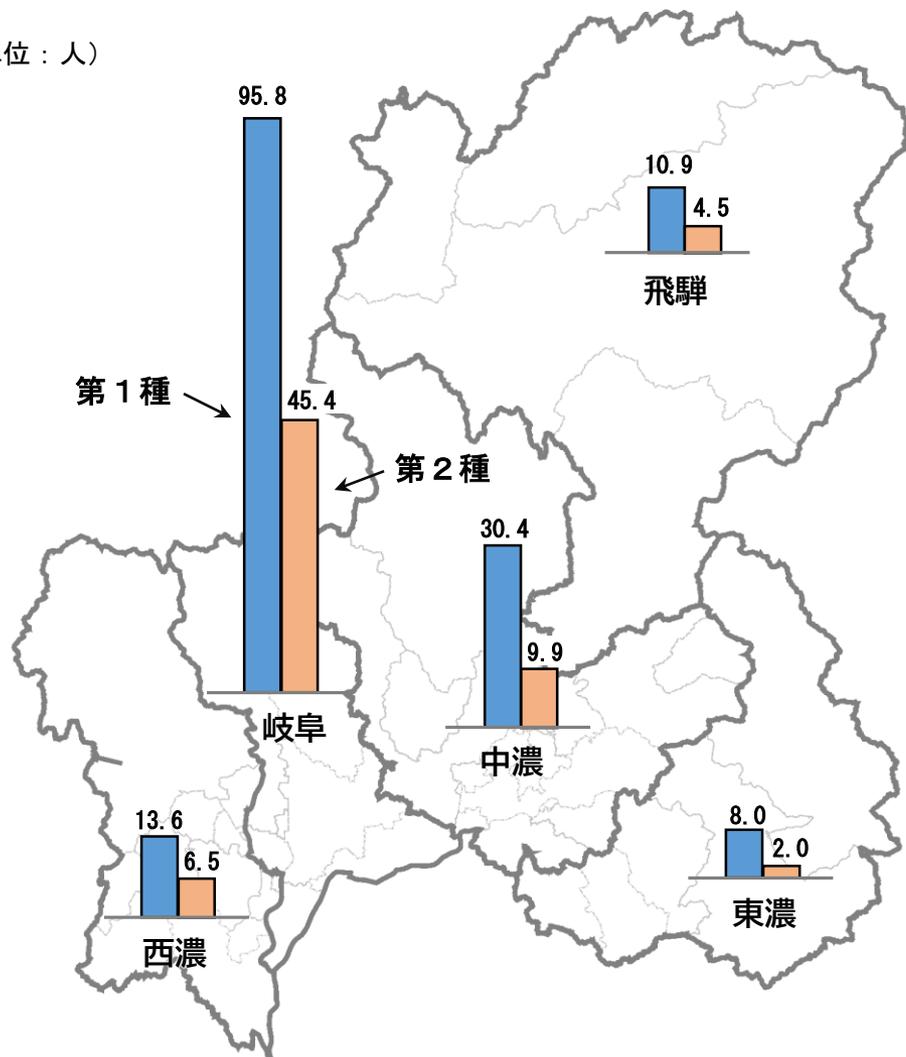
■ 第2種医学生修学資金受給医師の各年度における圏域別勤務状況（累計）（単位：人）



令和3年度における医学修学資金受給医師の圏域別勤務状況

第1種・第2種ともに岐阜圏域で勤務する医師が多く、東濃圏域での勤務は少ない。

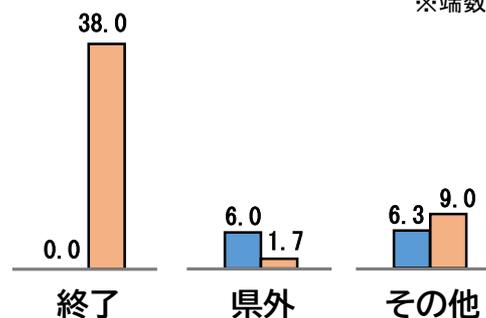
(単位：人)



■ 令和3年度 圏域別勤務状況 (単位：人)

圏域	第1種	第2種	
	割合(%)	割合(%)	割合(%)
岐阜	95.8	56.0	38.8
西濃	13.6	7.9	5.6
中濃	30.4	17.8	8.5
東濃	8.0	4.7	1.7
飛騨	10.9	6.4	3.8
県外	6.3	3.7	7.7
その他	6.0	3.5	1.4
終了	0.0	0.0	32.5
計	171.0	100.0	117.0

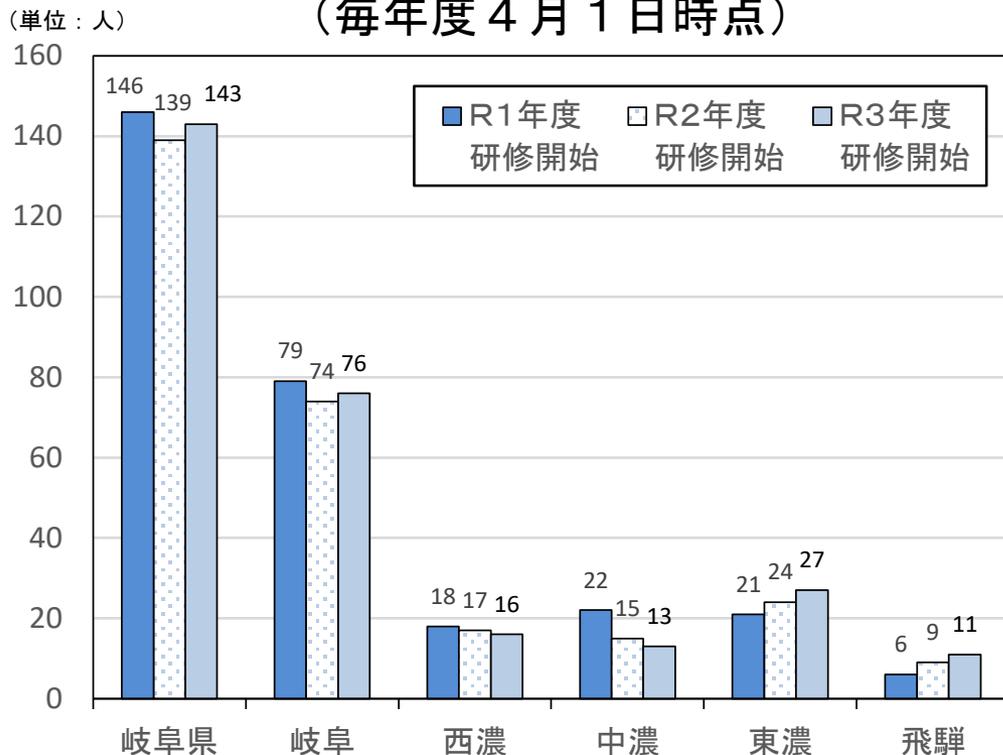
※端数は、年度途中での異動等によるもの



2-1 初期臨床研修医師数

基幹型臨床研修病院における1年次の採用者数（マッチング・追加募集・再開者）を圏域別で集計。本県の研修医の採用者数は、毎年140名前後で推移。圏域別では、岐阜圏域に約半数が集中。

圏域別 採用者数
（マッチング・追加募集・再開者含む）
（毎年度4月1日時点）



※「初期臨床研修」とは、医師法の規定により、医療に従事する際2年以上受けることとされている研修を指す。

※初期臨床研修の実施には、医学生と病院がそれぞれ希望順位登録を行い、マッチングシステムにより両者を組み合わせることによって、その研修先が決定される。

令和3年度医師臨床研修マッチング（令和4年度研修開始）結果

（単位：人）

圏域	病院名	R4定員 (A)	マッチング結果 (R3.10.28) (B)	空席数 (A)-(B)
岐阜	岐阜県総合医療センター	16	16	0
	岐阜市民病院	16	16	0
	松波総合病院	10	10	0
	岐阜大学医学部附属病院	35	13	22
	岐阜大学医学部附属病院（小・産）	4	0	4
	東海中央病院	7	7	0
	岐阜赤十字病院	4	3	1
	羽島市民病院	4	2	2
	朝日大学病院	4	4	0
長良医療センター	2	1	1	
西濃	大垣市民病院	20	18	2
	大垣市民病院（小・産）	4	0	4
	揖斐厚生病院	2	0	2
中濃	木沢記念病院	12	12	0
	中濃厚生病院	10	8	2
東濃	岐阜県立多治見病院	12	12	0
	土岐市立総合病院	5	1	4
	中津川市民病院	8	0	8
	東濃厚生病院	4	2	2
	多治見市民病院	4	3	1
飛騨	岐阜県立下呂温泉病院	2	2	0
	高山赤十字病院	8	8	0
	久美愛厚生病院	3	0	3
合計		196	138	58

※県総合医療センター、県立多治見病院、高山赤十字病院はそれぞれ自治医科大学卒業予定医師1名を含む。
※高山赤十字病院は、地域医療重点プログラム採用者を1名含む。

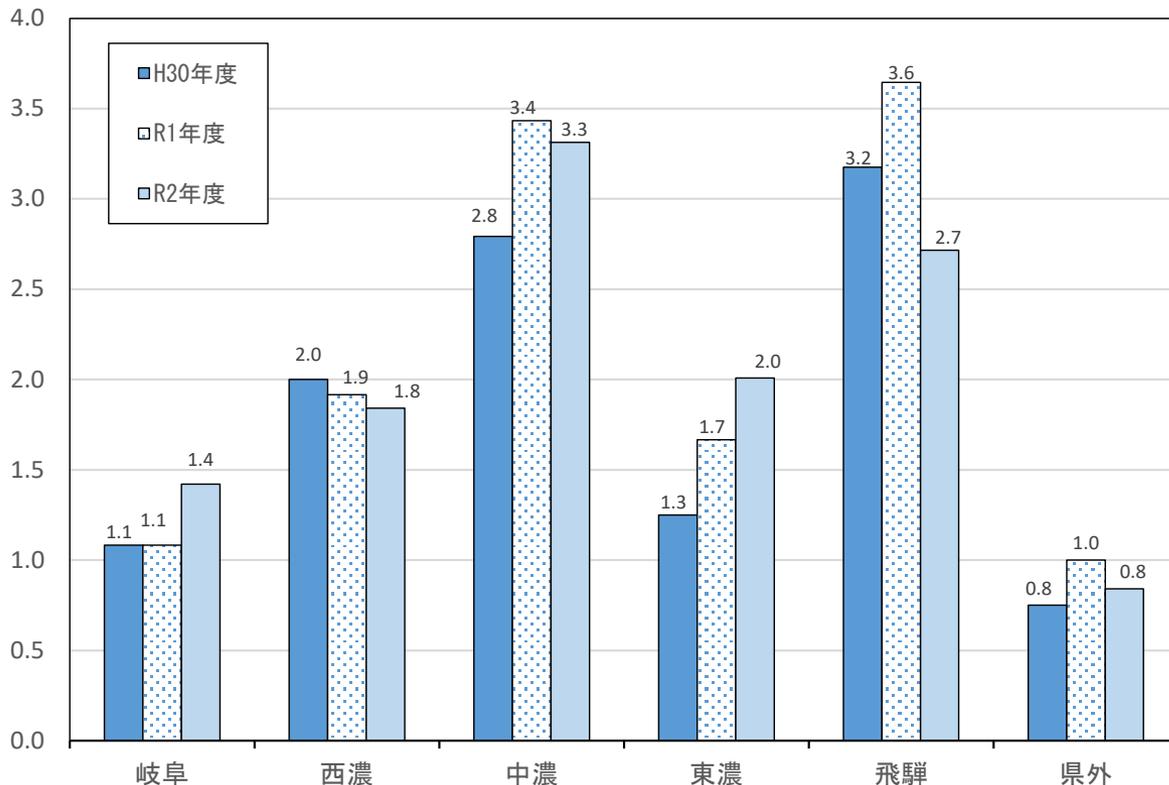
2-2 地域医療研修先

初期臨床研修の2年目にへき地・離島の診療所、中小病院・診療所等（※）において1か月以上行うこととされている「地域医療研修」先を、圏域別で集計。

中濃圏域・飛騨圏域で多くの地域医療研修が行われ、医師不足緩和の重要な役割を果たしている。

■地域医療研修における圏域別研修人数

（単位：人）



（※）R2からは「へき地・離島の医療機関」「許可病床が200床未満の病院または診療所」

■地域医療研修における圏域別研修人数

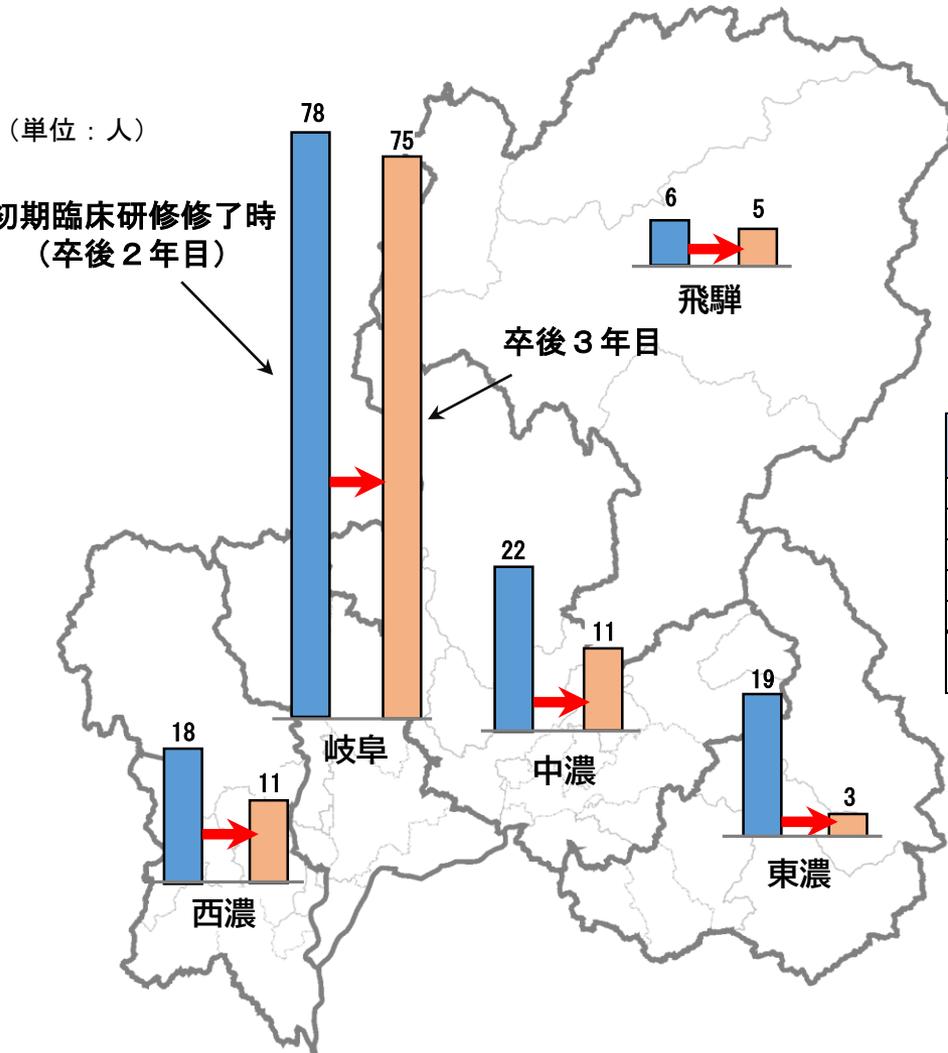
圏域	H30年度	R1年度	R2年度
岐阜	1.1	1.1	1.4
西濃	2.0	1.9	1.8
中濃	2.8	3.4	3.3
東濃	1.3	1.7	2.0
飛騨	3.2	3.6	2.7
県外	0.8	1.0	0.8
計	11.1	12.7	12.1

※単位：人（12か月研修を実施した場合＝1人とする）

2-3 初期臨床研修医の研修修了後の勤務先

令和2年度に初期臨床研修が修了した医師の、卒後3年目（令和3年4月1日現在）における圏域別の勤務状況について集計。

県内で初期臨床研修を行った医師の73.4%が、引き続き県内医療機関で勤務。



■ 令和2年度末研修修了者の卒後3年目の圏域別勤務状況

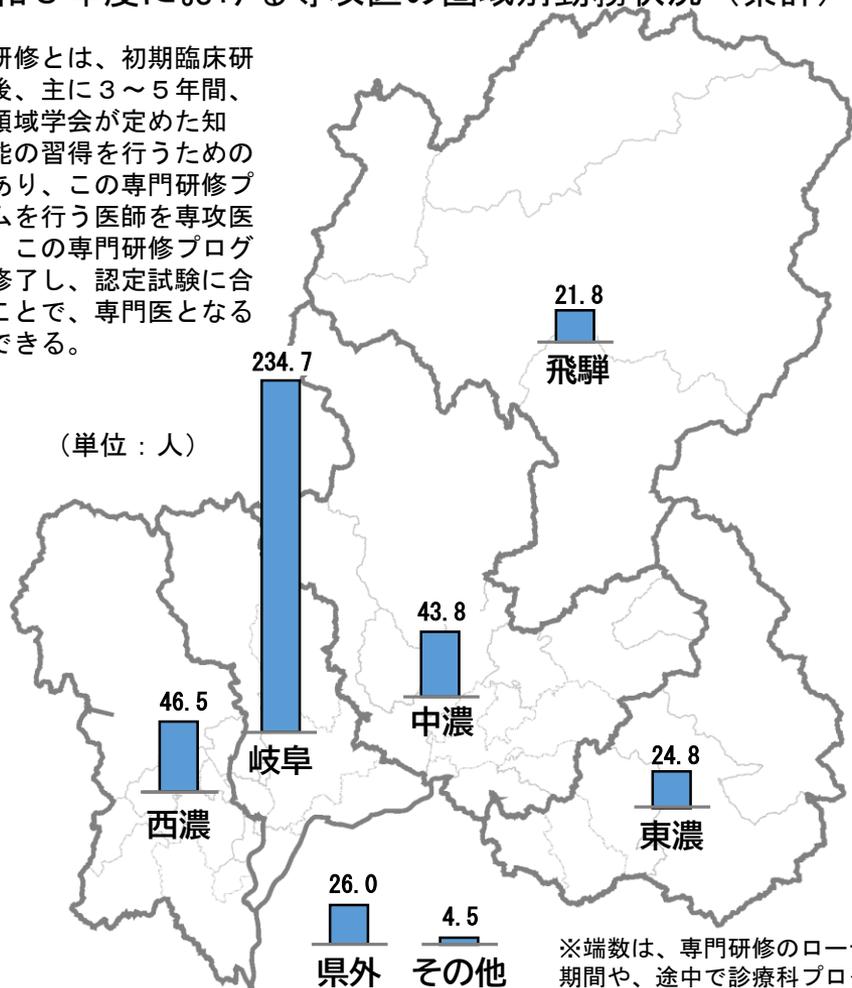
基幹型病院 （臨床研修）	県内 （人）	卒後3年目の勤務先					県外 （人）	不明 （人）	計 （人）
		岐阜	西濃	中濃	東濃	飛騨			
岐阜圏域	64	60	1	0	0	3	12	2	78
西濃圏域	12	4	8	0	0	0	6	0	18
中濃圏域	19	7	2	10	0	0	3	0	22
東濃圏域	6	2	0	0	3	1	12	1	19
飛騨圏域	4	2	0	1	0	1	2	0	6
計	105	75	11	11	3	5	35	3	143
割合（%）	73.4	52.4	7.7	7.7	2.1	3.5	24.5	2.1	100.0

専攻医の圏域別勤務状況

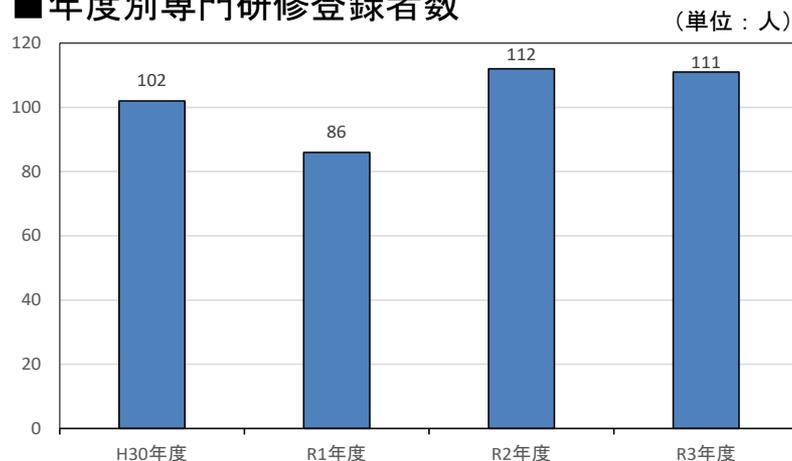
新専門医制度が開始された平成30年度以降、各年度の専攻医の登録数および圏域別の勤務状況を集計。毎年100名前後の専攻医が県内プログラムに登録し、現在は401.9名が県内外で勤務。圏域別では、岐阜圏域に約6割が集中。

令和3年度における専攻医の圏域別勤務状況（累計）

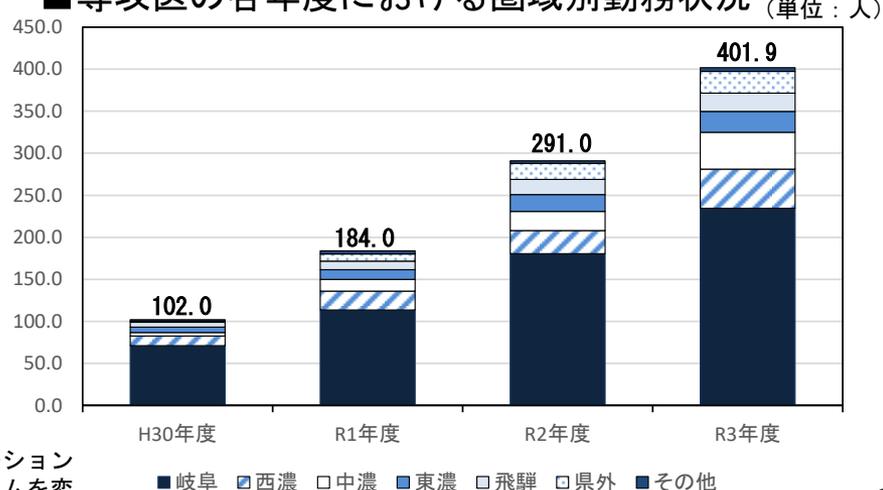
※専門研修とは、初期臨床研修修了後、主に3～5年間、各基本領域学会が定めた知識・技能の習得を行うための研修であり、この専門研修プログラムを行う医師を専攻医と呼ぶ。この専門研修プログラムを修了し、認定試験に合格することで、専門医となることができる。



年度別専門研修登録者数



専攻医の各年度における圏域別勤務状況



※端数は、専門研修のローテーション期間や、途中で診療科プログラムを変更したことなどによるもの